（　）年（　）組（　）番　氏名（　　）

24

古文の仮名遣い

中学校

(1) 次の文章を読んであとの1・2の問いに答えなさい。

つれづれなるままに、日暮らし、硯（すずり）にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。（「徒然草」より）

1 次の文章の―線部A・B・Cをそれぞれ現代仮名遣いに直して、**全てひらがな**で書きなさい。

A（　　）　B（　　）　C（　　）

2 作品名「徒然草」を全てひらがなで書きなさい。（　　）

(2) 次の**〈古典の文章〉**とその**〈現代語訳〉**を読んで、あとの1・2・3の各問いに答えなさい。

〈古典の文章〉

うつくしきもの。瓜（うり）に書きたるちごの顔。雀（すずめ）の子の、ねず鳴きするに、①をどりくる。二つ三つばかりなるちごの、いそぎて這（は）ひ来る道に、Aいと小さき塵（ちり）のありけるを、目ざとに見つけて、いとをかしげなる指（および）にとらへて、②大人ごとに見せたる、いとうつくし。頭（かしら）はあまそぎなるちごの、目に髪（かみ）のおほへるを③かきはやらで、Bうちかたぶきて物など見たるも、うつくし。

（「枕草子」より）

〈現代語訳〉

かわいらしいもの。瓜に描いた幼児の顔。雀の子がちゅうちゅうとねずみの鳴き声をして呼ぶとおどるようにやってくるのも（かわいい）。（また）一、二歳ぐらいの幼児が急いで這（は）ってくる途中に、（人の目につかぬような）たいそう小さいちりがあったのを、目ざとく見つけて、とてもかわいらしい指でつまんで、おとななどに見せているのは、まことにかわいいものである。頭の髪の毛を短くおかっぱに切りそろえてある幼児が、目のところまで髪の毛のおおいかぶさっているのをかきのけることもしないで、首をかしげて何かを見ているのも可憐（かれん）である。

1 〈古文の文章〉の――①～③を現代仮名遣いに直して、**すべてひらがな**で書きなさい。

①（　　）　②（　　）　③（　　）

2 「Aいと小さき」「Bうちかたぶきて」の意味を**〈現代語訳〉**の中から抜き出しなさい。

A（　　）　B（　　）

3 作品名「枕草子」を全てひらがなで書きなさい。（　　）

（　　）年　（　　）組　（　　）番　　氏名（　　）

24 古文の仮名遣い　解答

(1)　次の文章を読んであとの１・２の問いに答えなさい。

> つれづれなるままに、日暮らし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。　（「徒然草」より）

１　次の文章の一線部A・B・Cをそれぞれ現代仮名遣いに直して、**全てひらがな**で書きなさい。

A（　むかいて　）　B（　あやしゅうこそ　）　C（ものぐるおしけれ）

２　作品名「徒然草」を全てひらがなで書きなさい。　（　つれづれぐさ　）

(2)　次の**〈古典の文章〉**とその**〈現代語訳〉**を読んで、あとの１・２・３の各問いに答えなさい。

> **〈古典の文章〉**
>
> うつくしきもの。瓜に書きたるちごの顔。雀の子の、ねず鳴きするに、を①とりくる。二つ三つばかりなるちごの、いそぎて這ひ来る道に、いと小さき塵のありけるを、目ざとに見つけて、いとをかしげなる指に②とらへて、大人ごとに見せたる、いとうつくし。頭はあまそぎなるちごの、目に髪の③おほへるをかきはやらで、うちかたぶきて物など見たるも、うつくし。
>
> （「枕草子」より）
>
> **〈現代語訳〉**
>
> かわいらしいもの。瓜に描いた幼児の顔。雀の子がちゅうちゅうとねずみの鳴き声をして呼ぶとおどるようにやってくるのも（かわいい）。（また）一、二歳ぐらいの幼児が急いで這ってくる途中に、（人の目につかぬような）たいそう小さいちりがあったのを、目ざとく見つけて、とてもかわいらしい指でつまんで、おとなたちに見せているのは、まことにかわいいものである。頭の髪の毛を短くおかっぱに切りそろえてある幼児が、目のところまで髪の毛のおおいかぶさっているのをかきのけることもしないで、首をかしげて何かを見ているのも可憐である。

１　〈古文の文章〉の――①～③を現代仮名遣いに直して、**すべてひらがな**で書きなさい。

①（　おどりくる　）　②（　とらえて　）　③（　おおえる　）

２　「A いと小さき」「B うちかたぶきて」の意味を**〈現代語訳〉**の中から抜き出しなさい。

A（　たいそう小さい　）　B（　首をかしげて　）

３　作品名「枕草子」を全てひらがなで書きなさい。　（　まくらのそうし　）